

1. 校内研修の基本方針

- (1) 教育の専門職としての自覚に立ちながら、研究主題に沿って実践的な共同研究を推進し、子どもたちの学びの支援に生かす。
- (2) 教職員個々人の時代に対応する見識を広げる個人研修の機会確保に努めることによって、資質の向上を図るとともに、その成果を共同研究に還元できるように努める。
- (3) 「明日の授業」に役立つ研修体制の確立を図りながら、「途別小学校ならではの」の研究を実践するとともに、その研究成果を生み出すように努める。

2. 研修業務内容

- 校内研修の企画・運営・推進
- 各種研究会等の案内・受付
- 職員図書を紹介・購入・管理
- 外部教育機関等との連携及び協力

3. 研究主題

主体的・協動的に学び、自己を高める子どもの育成（2/2年次）
～課題解決的な食農教育の推進を軸として～

4. 研究主題設定の理由

(1) 今日的な教育を取り巻く情勢から

平成27年度のOECDによる学習到達度調査（PISA）では、「授業が楽しくない」「授業が社会に役立つとは思えない」と答える子どもの割合が諸外国に比べて高く、加えて自己肯定感が低いことも明らかになっている。また、近年、情報化やグローバル化、人工知能の進化が加速的に進展するようになってきている。そうした複雑で予測困難な時代においては、ただ一方的に知識を教えるだけの教育では、期待される人材を育成することはできない。知識の習得に加えて、身の回りに生じる様々な問題に対して主体的に立ち向かい、その解決に向けて異なる多様な他者と協働して、それぞれの状況に応じて善処できる人材が求められている。そのため、平成29年度改訂の新学習指導要領においては、新しい時代に必要となる資質・能力を、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」とし、授業改善の視点としては、主体的・対話的で深い学びの推進を掲げている。

(2) 本校の実態から

一昨年度まで、本校の研究は「ひびき合い、新たな学びを探究する子どもの育成～ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を通して～」の主題の下、「焦点化」「視覚化」「共有化」というユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開や、主体的・対話的で深い学びにつながるよう、話し合いや振り返りの機会の充実を図るなどの研究を深めてきた。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開では、児童に見通しをもたせることができ、学習意欲の喚起にもつながるなど一定の成果を得ることができた。一方で、主体的・対話的で深い学びに関わっては、以前より児童が発言し授業に参加する姿が見られるようになったが、児童の「対話的」な姿になるためにはまだ課題が残っているため、今後も各教科等で指導を継続し、身に付けていく必要がある。

また、昨年度研究を始めるに当たり、本校教職員にアンケートを実施した結果、特に「主体的に考え、協動的に関わり合うこと」、「思考力・判断力・表現力等、自己を高めること」について課題であるという意見が多く出された。したがって、基礎・基本の定着を基盤としながらも、主体的・協動的に学び、思考力・判断力・表現力等の自己を高めようとする子どもの育成が必要であると考えられる。

(3) 副主題について

副主題は、本校の特色ある教育活動である稲作体験活動を中心とした「食農教育」の推進を軸とした。その時間は、「総合的な学習の時間」と「生活科」の時間を核として位置付けている。「総合的な学習の時間」は、各教科等で身に付けた力を活かし、課題解決に向け探究的に学習する時間であり、学んだことが意味あるものだと児童が実感できる時間でもある。また、「総合的な学習の時間」は、学校教育目標と深く結び付き、本校の目指す子ども像に迫るためには欠かせないものである。さらに、本校の食農教育は、課題設定の素材に恵まれ、地域との結び付きも強く、多様な他者と関わる機会も多く保障されている。そのような環境を生かし、受動的ではなく主体的に学び、多様な他者と協働的に関わる中で、自己を高めていく子どもを育てることができる。また、「生活科」の目標の一つに、「身近な人々、自然及び社会に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う」とある。このことから、「生活科」においても、自ら身近な人々や社会及び自然に働きかけて主体的・協働的に学び、生活を豊かにしようとする自己を高める子どもを育てることができる。と考える。

以上のことから、課題解決的な食農教育の推進を軸として、「主体的・協働的に学び、自己を高める子どもの育成」を本研究主題に設定した

5. 研究教科・領域

「生活科」「総合的な学習の時間」

6. 1年次の成果・反省

昨年度は、児童の実態を踏まえ、以下の3点を重視した授業づくりを目指してきた。

- 「主体的・協働的に学ぶ」ために、課題設定を厳選し、工夫する。
- ユニバーサルデザインの3つの視点(「視覚化」「焦点化」「共有化」)を生かした授業を基本とする。
- 「思考力・判断力・表現力等の自己を高める」ために、考えるための技法を活用する。

以上を踏まえ、昨年度の成果と課題について以下に示していく。

課題設定の工夫にかかわって

【成果】

- ・探究活動を「稲作」に関わる単元として広く設定したことで、課題設定の幅が広がり、その後の授業展開にも広がりが見られた。
- ・課題設定の幅が広がったことにより、見学学習や外部講師の出前授業など、単元の自由度も増した。
- ・稲作に関わる各行事と並行して単元を進めたことで、間接的に稲作体験活動への意欲や興味関心を高めることができた。

【課題】

- ・自由度が増した分、年間における単元の位置付けと単元計画に苦心した。
- ・過度の負担とならないよう、「稲作体験活動」や「農園活動」に沿った単元を選定した方がよい。
- ・「活動あって学びなし」とならないよう、目的を明確にした単元設定の工夫が必要である。(何かを完成させることが目的ではなく、その過程で子どもにどのような力を身に付けたいかが重要)

ユニバーサルデザインにかかわって

【成果】

- ・「視覚化」への手応えを強く感じる事ができた。
- ・ICT 機器の活用力の向上が見られた。
- ・視覚化による課題の焦点化の有効性を感じた。

【課題】

- ・「共有化」には、まだ手応えを感じるまでにいたっていない。
- ・「共有化」は子どもの力量によるところも大きいため、他教科や日々の実践を積み重ねる必要がある。

考えるための技法（思考ツール）にかかわって

【成果】

- ・「共有化」を図るための手段として有効であると感じた。
- ・子どもが話し合いを進める上での助けとなる。

【課題】

- ・日常的に取り組むことができなかった。
- ・総合的な学習の時間だけでなく、他教科も通して活用を図っていく必要がある。

児童のアンケート結果にかかわって

【成果】

- ・生活科・総合的な学習の時間に対する興味関心・意欲が高まった。
- ・自然と触れあう活動を好む傾向が見られた。
- ・稲作体験活動や農園活動などの「縦割り班活動」の成果もあり、協動的に取り組むことができた。

【課題】

- ・「調査・分析方法」「自発性」「学習の発展性」に課題が見られた。

7. 今年度の研究の重点

昨年度の「反省」を踏まえ、今年度は以下の2点を重視した授業づくりに取り組んでいく。

- ①「考えるための技法（思考ツール）」等を生かして「共有化」を図る。
 - ・・・課題である「共有化」を進めていくために、「考えるための技法（思考ツール）」等、情報を外化する手立てを日常的に取り入れていく。この思考ツールを生かした共有化により、子どもたちの「自発性」の向上や「調査・分析の方法」の定着を図っていく。
- ②子どもの生活や社会と関連付けた単元計画の工夫に取り組む。
 - ・・・他教科や社会生活と探究活動を結び付けることで、子どもたちの興味関心を学校内の活動だけでなく、学校外・社会生活へと幅広く向けられるよう、単元計画の工夫を図っていく。（学習の発展性）

8. 研究の仮説

仮説①「他教科や社会生活等と関連付けた単元計画の工夫により、主体的・協動的・発展的に学ぶ子どもが育成されるのではないか。」

仮説②「交流場面において、情報を外化させることにより、知識の共有化・社会化が図られ、自己を高める子どもが育成されるのではないか。」

9. 研究内容

- ・情報の外化と、知識の共有化・社会科の関連
- ・各教科と総合的な学習の時間・生活科の内容の関連
- ・各教科で身に付けた知識・技能の活かし方

10. 検証計画

仮説が成り立ったことをどう証明するか

（授業での児童の様子の見取り、児童の授業評価・振り返り、活動シート、作文
単元前・後での児童へのアンケート 等）

11. 研究計画

(1) 1年次

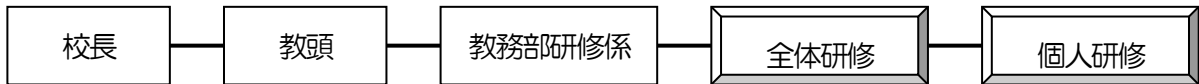
- ・研究主題、めざす子ども像の設定
- ・学年別目標、仮説、研究内容の設定
- ・総合的な学習の時間、生活科の取組方・理論研修

- ※総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力，他教科との関連，事前・事後指導のもち方など
- 授業実践（稲作体験活動に関わる探究活動），検証
- ※今年度は，「稲刈り」と「もちつき集会」の2点に絞って検証する予定
- 1年次のまとめ

(2) 2年次

- 総合的な学習の時間，生活科のカリキュラムの修正（1年次に並行して精査する）
- 授業実践（農園活動に関わる探究活動），検証
- 2年次のまとめ

12. 研究の組織（図）



13. 研究の構造図

